



「DMAT」ってご存知ですか？

救急看護認定看護師 酒井 麻希子

当院は、愛知県災害拠点病院（地域災害拠点病院）に指定されています。災害拠点病院は、被災地にあっては主に重症者を受け入れ、必要に応じて被災地外病院へ搬送する役割を担っています。平成24年度、当院は、愛知DMAT指定医療機関に認定されました。

さて、みなさんは、「DMAT」をご存知でしょうか。災害の急性期に活動できるよう、トレーニングを受けた災害派遣医療チームのことで、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって、「DMAT」と呼ばれています。平成23年の東日本大震災では全国から383隊、合計1,852名のDMAT隊員が任務にあたりました。

全国の災害拠点病院などの医療チーム（医師、看護師、業務調整員）が数日間の集中トレ

ニングを受け、試験に合格するとDMAT隊員に認定されます。昨年、私を含む5人がこの研修を受けました。研修では、災害直後からけがや具合の悪い人を救出し治療を行う現場での活動、重傷者を航空機や救急車で県外の災害拠点病院に搬送する訓練、被災地にある病院を支援する活動等を実践しました。

これからは「DMAT」として活動できるようさらに訓練に参加するとともに、院内での災害訓練や災害教育等で「DMAT」を活用していただけるよう、さらに活動を続けていきたいと思います。当院では、毎年、秋に災害訓練を行っています。ぜひ、皆さま当院の災害訓練の見学に一度お越しください。

子どもの手術もおまかせ下さい

手術看護認定看護師 米村 雅美

みなさん「プレパレーション」という言葉をご存じでしょうか。「プレパレーション」とは「心の準備」のことを言います。子どもが医療を受ける時、その「理由」よりも「何が起こるか」を子どもが分かる方法で説明し、子どもが感じるさまざまな不安や恐怖心を予防・緩和することを目的としています。大人でも手術はとても不安なものです。子どもはその何倍もの恐怖心を抱きます。それを最小限にするために、私たちは「手術を受ける子どものためのプレパレーション」を行っています。手術室に入る時に少しでも楽しく、興

味を持って入れるように環境を整えたり、手術を乗り越えられるように「頑張ったねメダル」を作成したり、頑張れたごとにシールのプレゼントをしたりと様々な工夫をしています。「手術室って、怖い所じゃなかったよ」「ほく（わたし）、頑張れたよ」とこれまでに手術を受けてきた子どもたちや保護者の方々にも好評を頂いています。これからも子どもが笑顔になれる手術室を目指して、病棟・手術室の看護師は一丸となって取り組んでいきます。子どもの手術も私たちにおまかせ下さい。